

口永良部島の火山活動 —2000年2月～2001年5月—*

Volcanic Activity of Kuchinoerabujima Volcano
—February 2000 — May 2001—

福岡管区气象台
鹿児島地方气象台

Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA
Kagoshima Local Meteorological Observatory, JMA

1. 活動概要

期間中、火山性地震は日に数個と少ない状態で経過した。月別の地震回数は、1999年10月の366回をピークに減少していたが、2000年6月から徐々に増加しており、1999年7月以前と比べると多い状態が継続している。

福岡管区气象台が1999年（平成11年）9月に新岳付近に設置した地震計による2000年（平成12年）2月1日から2001年（平成13年）5月31日までの日別地震回数を第1図から第3図に示した。ここでは初期微動継続時間（S-P time）が3秒以内を火山性地震として計数しているが、口永良部島の東10kmの海域を震源とする地震も含まれる。この海域で発生する地震は構造性的地震であり、口永良部島の火山活動との関連はないと考えられるため第1図～第3図ではそれ以外の火山性地震と区別して示している。第4図は1992年（平成4年）1月から2001年5月までの月別地震回数で、1999年9月12日までは京都大学の観測データ、それ以後は福岡管区气象台が設置した地震計から読み取ったデータを用いている。観測手段を福岡管区气象台設置の地震計へ移行するにあたっては、地震回数の連続性が保たれるように振幅基準を設定し、また東約10kmの地震は除いて計数している。

上屋久町役場によると、この期間、新岳の噴煙は認められていない。

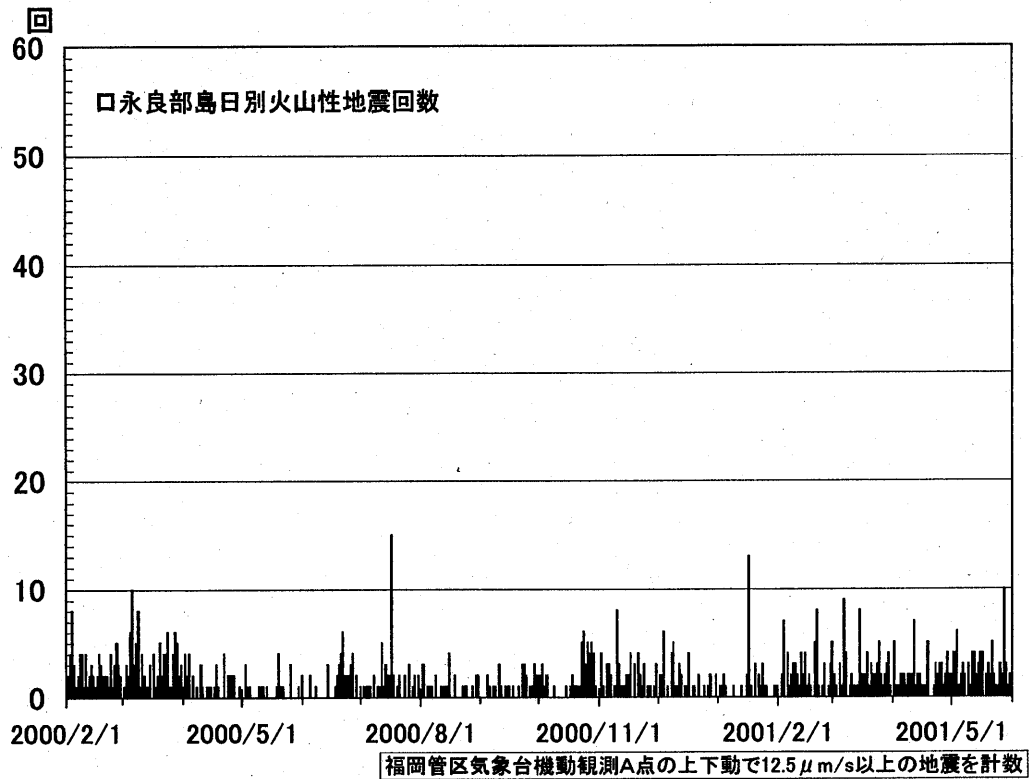
2000年4月24日に鹿児島地方气象台が海上自衛隊の協力で行ったヘリ観測では、古岳火口およびその周辺から白色で少量の噴気を高さ30mに上げ、その周辺には昇華鉱物の付着が見られた。新岳火口および新岳東側斜面から南北に延びる割れ目火口（1980年（昭和55年）水蒸気爆発）からは、噴気は見られなかった。

2. 火山情報の発表経過

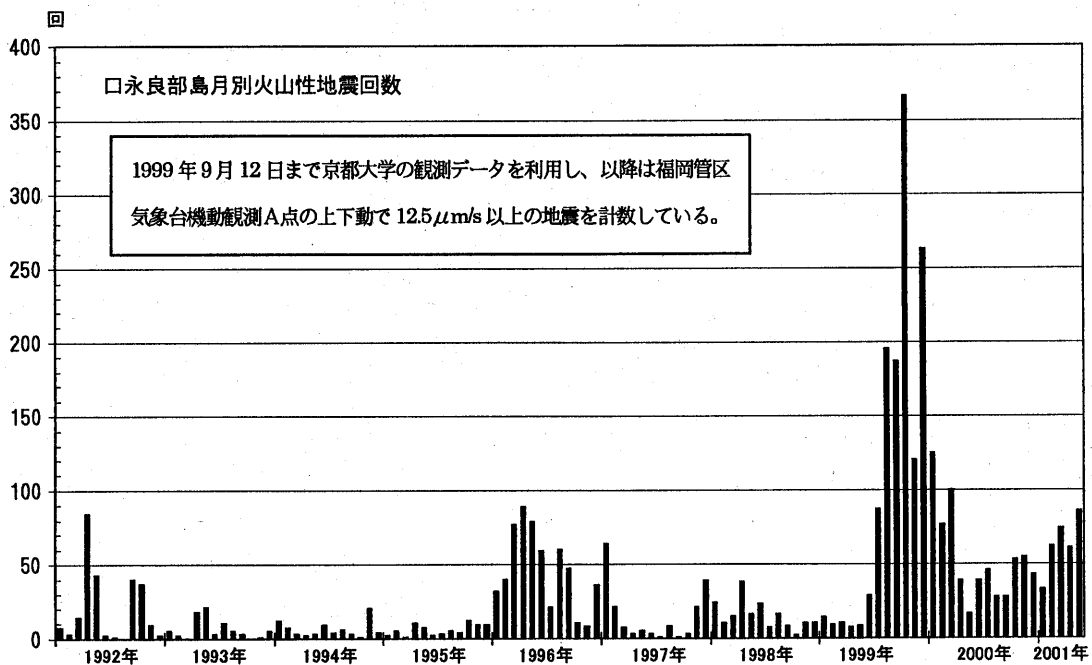
本期間（2000年2月～2001年5月）、鹿児島地方气象台が発表した火山情報は以下のとおりである。

火山観測情報 第2号 2000年2月4日 ～ 第3号 3月3日

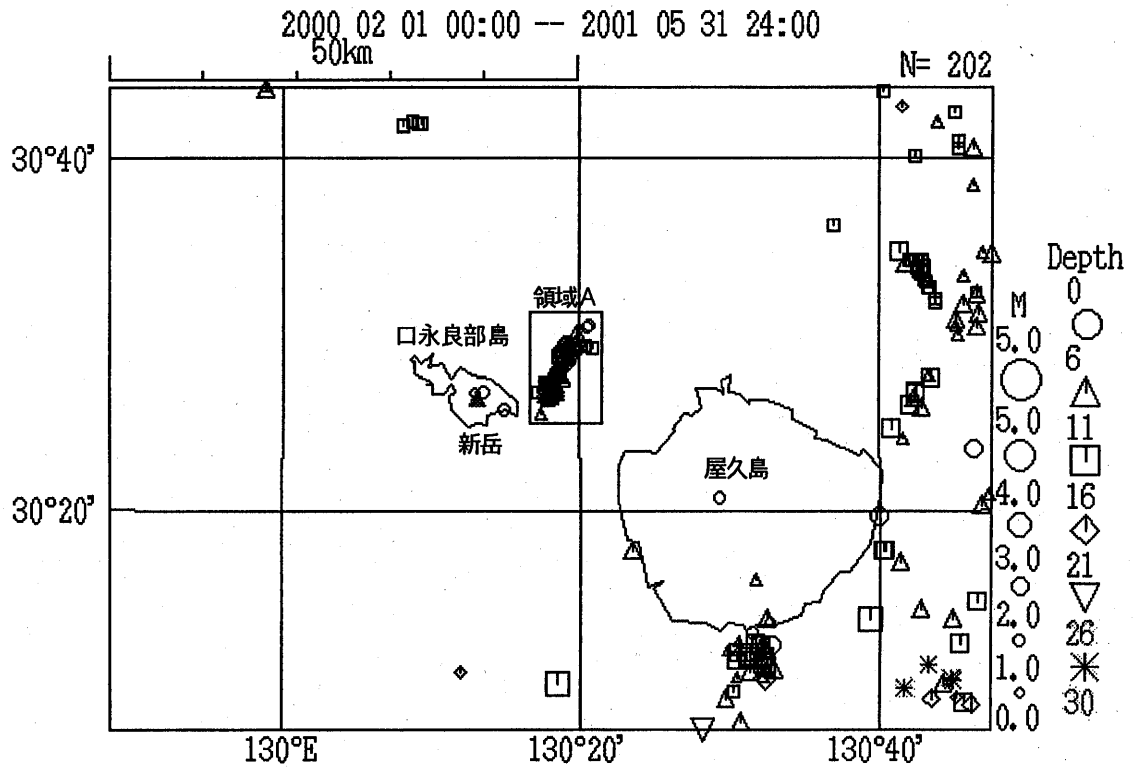
* Received 28 Aug., 2001



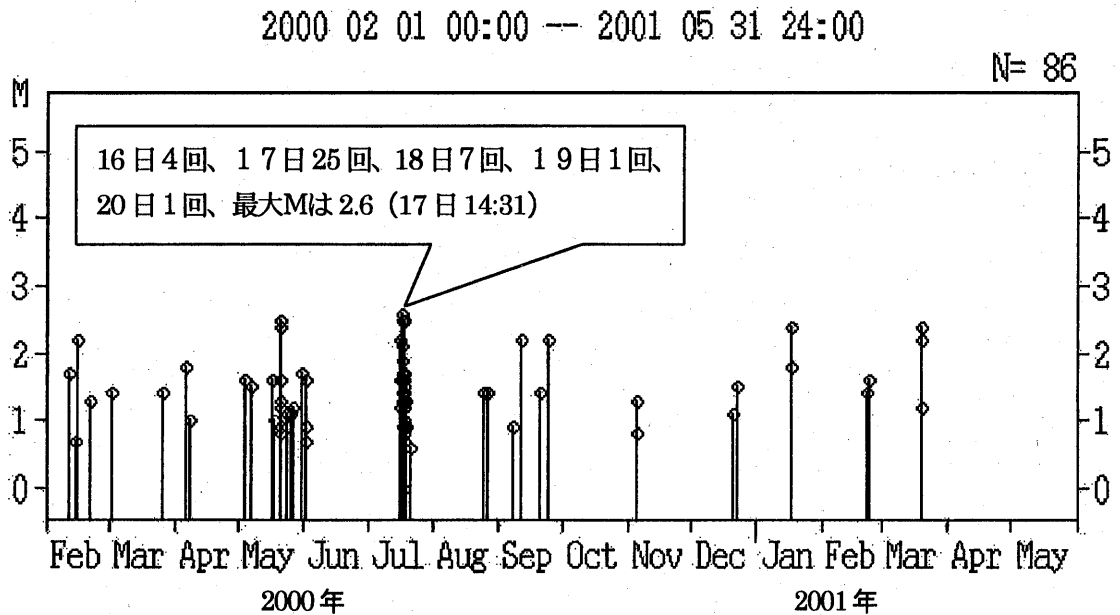
第1図 口永良部島の日別地震回数 (2000年2月1日~2001年5月31日)
 Fig. 1 Daily frequency of volcanic earthquakes at Kuchinoerabujima volcano.
 (Feb. 1 2000 - May 31 2001)



第2図 口永良部島の月別地震回数 (1992年1月~2001年5月)
 Fig. 2 Monthly frequency of volcanic earthquakes at Kuchinoerabujima volcano.
 (Jan. 1992 - May 2001)



第3図 口永良部島周辺の震央分布図 (2000年2月1日~2001年5月31日)
 Fig. 3 Epicenter around Kuchinoerabujima.
 (Feb. 1 2001 - May 31 2001)



第4図 領域AのM-T図 (2000年2月1日~2001年5月31日)
 Fig. 4 M-T diagram of area A. (Feb. 1 2000 - May 31 2001)